



第  
71  
号

発行日：2022年4月1日  
 発行：特定非営利活動法人 おおつ環境フォーラム  
 (大津市地球温暖化防止活動推進センター)  
 住所：〒520-0047 大津市浜大津四丁目1番1号 明日都浜大津4階  
 電話：077(526)7545 / FAX：077(526)7581  
 フォーラムHP：<https://eco-otsu.net>  
 Eメール(事務所)：forum@eco-otsu.net

＜事務局長から＞ 桜花爛漫の候 大津市温暖化防止活動推進センター3期目がスタートいたしました。気持ちを新たにさらなる環境保全活動に努めて参りたいと存じます。昨年度の総会で改正された定款の定めにより新年度の事業計画・活動予算は理事会にて議決し、市予算も確定しましたので切れ目なく活動できるようになりました。皆様のご支援、ご協力よろしくお願い申し上げます。

会員数 142名 (2022年3月末現在)

トピックス

○ おおつ市民環境塾「滋賀県のCO2 ネットゼロ社会づくりを考える」を開催しました

1月29日、ふれあいプラザにておおつ市民環境塾2021講座8「滋賀県のCO2 ネットゼロ社会づくりを考える」を開催し、滋賀県総合企画部CO2 ネットゼロ推進課廣田大輔氏に滋賀県の脱炭素化に向けた取り組みについて解説いただきました。年明けから新型コロナウイルス感染者が急増、これまでにない人数となった警戒からか、参加者は10人と少なくなりました。



地球温暖化の脅威が差し迫る中、滋賀県は、2020年1月に「しがCO2 ネットゼロムーブメント」キックオフ宣言を行い、この3月に「滋賀県CO2 ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例」と同推進計画を施行、策定しました。講演では、この新しい条例・推進計画(講演時は原案段階)や脱炭素化に向けた世界・日本・自治体・企業などの取組状況についてお話しいただきました。推進計画には、再エネ導入量と温室効果ガス吸収量の数値目標やCO2を排出しない社会づくりの方策(ライフスタイル転換、地域づくり、気候変動適応などと県の率先実施項目)があげられています。また、スマートエコハウス推進事業などの紹介もありました。

○ おおつ市民環境塾「湖国・近江の森と里と湖」を開催しました

コロナ対応ステージが特別警戒ステージとなったことにより昨年9月から延期していたおおつ市民環境塾2021講座4「湖国・近江の森と里と湖」を、2月5日にふれあいプラザにて開催し、16人が参加されました。



滋賀県立琵琶湖博物館専門学芸員の中井克樹氏から日本最古、世界でも屈指の古代湖であり多くの固有種を育む琵琶湖の生物多様性について講演していただきました。県内ほぼ全域の水を集める琵琶湖は、とり囲む山や里、人々の生活の変化に大きく影響されます。これらの変化によって多くの希少種が姿を消す一方で有害鳥獣や人間が持ち込んだ外来種が増え、ひいては人の生活に悪影響を与えています。地域の生物多様性は長い歴史を経て獲得されてきたもので、これを守り引き継いでいく必要があります。人間のふるまいが自然の枠組みからどれほど外れているか自覚しなければなりません。

○ 生ごみ堆肥化研修会「堆肥と土壌そして植物栽培」を開催しました

生ごみ堆肥化研修会「堆肥と土壌そして植物栽培」は、10月30日に開催予定でしたが、予定の講師が体調不良のため開催できなくなり、新たに龍谷大学農学部資源生物科学科農場専門技術助手で土壌医の吉村大輔氏に講師をお願いし、2月26日にふれあいプラザにて開催しました。参加は飛び入りの3人を含め25人でした。



堆肥は、植物残渣と家畜の糞尿やぬかなどを混ぜ、腐熟させたもので、植物栽培に重要な要素の土壌の性状(団粒化などの物理性、pHなどの化学性、微生物との共生などの生物性)を適切にする働きがありますが、腐熟が不十分だったり量が多すぎたりすると有害になります。どうすれば食品残渣を素早く有用な堆肥にできるか、未熟だとどんな影響が出るかを、この講座のために実験された結果で明示されました。堆肥は使い方次第、土壌は生きものであることがよくわかりました。

## ○ 大津市地球温暖化防止活動推進センターの指定証を受領しました

おおつ環境フォーラムは、大津市地球温暖化防止活動推進センター（大津市センター）指定団体に第3期（2025年度末まで）も引き続き指定され、3月9日、大津市センター事務所において指定証の交付を受けました。これまで同様、大津市センターとして、深刻化しつつある地球温暖化を防止するために市民や事業者の皆さんと協働して、さまざまな講座・イベントの開催、啓発資料づくりなどを通じ、環境保護や再エネ・省エネの普及、啓発に取り組みます。



## ○ 出前講座「家庭の省エネ簡易診断」を実施しました

2月27日、市立和邇図書館でエネルギープロジェクトメンバーによる出前講座「家庭の省エネ簡易診断」を実施し、市民6人が受講されました。

講座では、気候変動の影響から、温暖化防止対策の必要性、CO2排出削減目標とそれを達成するために家庭でできることなど具体例を挙げながら解説しました。その後、受講者に「家庭の省エネ簡易診断」小冊子の簡易診断を行っていただきました。薪ストーブを利用されるなど想定以上の取り組みをされている方もおられました。最後にエコライフデーを題材に心がけだけで取り組める事例、特に車利用について詳しく説明し、日常の行動変容の重要性を認識していただきました。また、図書館開催ということで、温暖化懐疑論の書籍が多いという問題も含め関連図書の紹介を行いました。



## ■プロジェクト等からの活動報告・お知らせ

### 《子どもが遊べる川づくりプロジェクト》

3月18日、地域による水生生物の生息状況の違いなどを調べ、またプロジェクトメンバーの水生生物観察眼を養うため、草津川の上流・下流で水生生物を採集し、ウォーターステーション琵琶にて同定のポイントなどを学びあいました。



数浮遊していたので、熊手や竹竿でかき集め、排水しながら取り除きました。メダカは見られず、フナが数匹いたのみでした。6月に予定している「オタマジャクシと遊ぼう」に向けて生き物の回復が危ぶまれます。

### 《エネルギープロジェクト》

2月19日に予定していたワークショップ「CO2 46%削減意見交換会」がコロナ禍深刻化により中止となったため、3月15日に大津市環境政策課のお二人とおおつ環境フォーラムの7人で2050年の脱炭素化に向けた活動について意見交換を行いました。市からは、省エネ推進・啓発、住宅のZEH化支援、EV充電設備の設置促進、省エネ新築マンションの建築推進、行政としての率先実践事項等の計画が示されました。これに対して具体的な対市民・対小規模事業者活動や啓発冊子づくり、地域創エネなどを例に話し合いました。

### 《生ごみプロジェクト》

2月22日、市民活動センターで6名が参加して生ごみ堆肥化資材ボカシを作りました。また、3月末をもってフォーラム運営の市民農園を閉園しました。

### 《ビオトーププロジェクト》

3月13日、春日山ビオトープの池の水位は回復していましたが水面に茶色く変色した藻のかたまりが多

## ■これからのフォーラム活動

※COVID-19の感染状況により変更になることがあります。

プロジェクト等の名称	日時	場所・内容
<b>プロジェクト</b>		
子どもが遊べる川づくり	4月14日(木) 13:30	大津市センター//会議
生ごみリサイクル	4月15日(金) 9:00	市民活動センター//生ごみ堆肥化資材ボカシづくり
ビオトープづくり	4月10日(日) 9:00	北大路どろんこことぶ//草刈り作業
里山保全	4月2日(土) 10:00	春日山公園//定例会
	4月18日(月) 10:00	春日山公園//定例会
	5月7日(土) 10:00	春日山公園//定例会
エネルギー	4月5日(火) 10:00	大津市センター//定例会議、脱炭素小冊子検討会
	4月7日(木) 13:30	大津市センター//エコ料理打ち合わせ
	5月10日(火) 10:00	大津市センター//定例会議
<b>委員会・実行チーム・事業部</b>		
おおつ市民環境塾実行チーム	5月14日(土) 10:00	春日山公園//講座1「春日山公園の樹木を知る」
自然家族事業実行チーム	4月23日(土) 9:00	大將軍2丁目の畑//里の日準備(草取り)
全国ネット補助金事業実行チーム	4月5日(火) 13:00	大津市センター//責任者会議
里湖づくり事業実行チーム	4月14日(木) 9:30	琵琶湖環境科学研究センター・湖岸//調査活動
	4月22日(金) 9:30	琵琶湖環境科学研究センター・湖岸//湖底耕耘

\*大津市センター；大津市地球温暖化防止活動推進センター（明日都浜大津4F）